

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスなないろ				公表日 令8年 1月 30 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	広い空間となっている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	・基準の職員数より余裕をもって配置している。	当日の利用児数、職員の不在、支援の状況により差がある、状況により配置を工夫する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・生活に応じた空間づくりをしている。 ・食事・休息・活動スペースを分け構造化している。 ・車椅子に乗っていても車椅子から降りてもすざしやすいバリアフリー化となっている。	スペース内の室内靴を検討する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・収納を工夫している。 ・清潔・衛生を心がけている。心地よく過ごせるよう備品、装飾など工夫している。 ・こどもたちの成長に合わせて空間を調整している。	収納や物の配置の工夫をし、活動に合わせて常に整理整頓をしながら安全な環境をつくる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・パーティションを用意し必要に応じて個別の空間をつくっている。 ・発達支援室の他に施設内の別の部屋・場所を使うことができる。	個々の状態に応じて、落ち着ける場所や静養など個別のスペースを整える。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	・各係・委員会で作成計画を立て行っている。 ・計画・実施・振り返り・改善を行っている。（事業計画、係活動含め） ・会議や係活動、勉強会等において全職員が取り組んでいる。	事業所の方針や支援プログラムを踏まえて目標や計画を立て実施と振り返りを継続して行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	1年に1度アンケートをとり、内容を検討し改善につなげている。今年度はその他に支援に関する具体的なアンケートを実施し実現可能なところは始めている。	今すぐの実現が困難なことに関しては今後も定期的に検討していく。事業所だけでは改善が困難な内容は他関係機関の協力を得られるよう働きかける。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	職員間の話し合い、意見交換の場を大切にしている。内容を改善に繋げている。	職員間のコミュニケーションの場を大切に、意見を出しやすい環境を整えていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0		今後評価を検討	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	支援の質の向上のための研修、安全のための訓練に全員が参加し資質の向上と安全な環境作りに努めている。	年間計画を立て月に1回のペースでの研修や勉強会を継続して行う。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ガイドラインを参考に作成、ホームページに掲載している。また事業所内に掲示し紙面で保護者に説明し配布している。	発達を後押しする楽しみのあるプログラムになるよう定期的に内容を見直ししていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	発達の各領域ごとにアセスメントを行い、ニーズと課題を分析している。 保護者との面談や日常の情報共有、日々の様子の観察等からアセスメントを行い計画を作成している。	日々の支援における観察やご家庭や学校、他事業所等と情報共有することで適切なアセスメントと課題の分析につなげる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	個別支援会議や日々の振り返りにて、こどもの意思の尊重と、より良い方向に発達が向かうよう職員全員で意見を出し合い計画を立てている。	こどもの意思の尊重とより良い方向を目指して今後も1人ひとりに合わせた個別支援計画を作成していく。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	個別支援会議に全員が参加し計画案を修正した後最終的な内容を確認し、内容に沿った支援を行っている。	計画の内容を職員全員が理解して支援が行われているかモニタリングを含め日々の振り返りで確認していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	領域ごとの発達の状態表を使用し、日々の行動観察や関係機関との情報交換、記録等により各専門職の見立てを取り入れたアセスメントを作成し確認している。	発達の5領域のアセスメントシートの他に、個々の状況と行動に応じて行動分析シート等を活用する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	本人支援は5領域とのかかわりもち、きょうだいを含めた家族支援、将来を見据えた移行支援及び地域連携のねらいを踏まえ設定している。	職員研修で放デイガイドライン等を確認し、本人支援と家族支援、移行支援、地域連携について、今後も継続して理解を深めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	活動係で立案実施している。また、職員会議などでイベントや行事のプログラムについて全員で案を出し合っている。	活動係を中心にチームでプログラムの立案をする。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	月案・週案を立て様々な活動で子ども達が楽しめる工夫している。	年齢や個々の好み、特性に合わせた活動内容と参加方法を工夫する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・一人ひとりに合わせた個別活動とお友達との関わりを感じられる集団活動を組み合わせで行っている。 ・児童の当日の体調や気分により状況を把握し個々に合った支援をしている。	こどものその日の気分や体調、状況に応じて支援内容を調整する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎回打合せを行い、その日の支援内容や役割分担、注意事項等を確認している。	打合せの際にはボードと口頭で職員同士お互いに確認をする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	振り返り際にはこどもの様子、支援内容、今後の配慮等意見を出し共有している。	職員全員が打ち合わせと振り返りで支援内容を共有できるようタイミングと方法を調整する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	支援内容、こどもの様子、対応を記録し、職員間で意見交換をし改善につなげている。	支援中の気づきをより細かく記録に残す。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・6か月内にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。変更のある時はその都度見直ししている。	日々の支援に対する振り返りや保護者やこどもの反応、思いを丁寧にモニタリングし、適切に見直しをする。
関係機	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	6	0	内部研修でガイドラインを確認し、支援の組み立てを行っている。	今後も基本活動を踏まえ様々な体験ができるよう支援内容を調整する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	こどもが自ら選んで決める場面を日常的につくっている。	自由に意思表出できる環境づくりをし、日常の小さなことから自分で選んで決める力が育つよう支援する。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童発達支援責任者等が参加し、関係機関と情報共有や課題解決に取り組んでいる。	積極的に会議に参加し1人ひとりの支援に役立てる。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	地域自立支援協議会や児童通所事業所会議等に参加し、連携して支援を行う体制づくりをしている。	地域自立支援協議会や各支援センター等との連携を強化する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	定期的に行われる学校訪問の際に情報共有が行われ対応を確認している。 また学校からの連絡にてその都度情報が適切に対応している。	定期的に情報共有をし、不明な部分はその都度確認する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	電話連絡や実際に訪問し、状況の確認と支援の伝達を受けている。	利用前の事業所と連携し、ご本人とご家族の状況や支援内容の相互理解に努める。

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	担当者との情報共有やアセスメントシート、個別支援計画書の情報提供をしている。	移行の際に保護者の同意を得た上で移行先とご本人の状況や支援内容等について情報共有をする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0	社会福祉協議会や子育て支援センター、医療的ケア児等支援センター等のオンライン研修や対面研修を確認し受講している。	各関係機関に積極的に相談等をする機会をつくっていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	同法人内の他事業所との交流をしている。	感染対策をしながら近隣の同年代の児童通所事業所等との交流を企画したい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	自立支援協議会や児童通所事業所会議等情報共有や連携のために積極的に参加している。	会議に参加し情報共有と地域の課題解決に取り組む。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	日々の連絡帳や送迎時に保護者に状況を伝え、共通理解と支援に繋げている。	細かい気づきを情報交換をしアセスメントと課題分析につなげていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	利用日のお迎え時やイベントを利用してこどもの様子を伝え情報提供等を行っている。ペアレントトレーニング等は行っていない。	ご家族向けの研修や情報交換会等があればその都度情報提供を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	書面と口頭で確認しながら説明を行っている。	伝わりやすく説明を行えているか確認をする。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	日々の関わりの中でこどもの意思表出をくみとり、より良い方法を職員間で話し合い計画に反映させている。面談や送迎時の情報交換の場を活用して家族の話をうかがい意向を確認している。	こどもの思いと保護者の思いが計画に反映されているか、支援内容を確認し見直しをしていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	計画書を提示して説明を行い同意を得ている。	保護者が希望や意見を出しやすいように説明の際にも確認をする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	日々の送迎時や面談時に話をうかがい必要に応じて対応している。	そのときそのときの困りごとに寄り添い、ご家族と一緒に考えていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	2	夏祭り等行事を通してきょうだいを含めた家族間の交流を図っている。	夏祭り等で家族で参加していただく機会にきょうだい同士の交流の場を設定する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	ご希望・ご要望にその都度対応している。苦情は今のところないが、対応の体制整備をしている。苦情の対応方法について掲示している。	希望や要望、不安ごとををいつでも伝えやすいようお知らせと環境設定を工夫する。対応を定期的に確認する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	利用毎の連絡ノートでの様子のお知らせや毎月のおたより、ホームページにて情報を発信している。	発信方法や連絡ツールについて現行以外のものも検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	研修を行い職員全員で意識合わせをしている。方針に沿い個人情報の取扱いに十分に注意している。	個人情報の取扱いについて定期的に職員研修を行い意識を高め、対策を周知する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	言葉やイラスト、実物等伝わりやすい方法でこども一人ひとりに合わせて配慮している。保護者への説明は口頭と文書にて行っている。	個々に合った伝わりやすい方法を今後も工夫していく。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	行事の際にボランティアさんに来てもらったり随時見学の受入をしている。	地域の方々に事業所やこどもたちのことを知っていただく機会をつくる。	
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	マニュアルの定期的な見直しと周知・研修・訓練を実施している。毎回想定内容を変え工夫して行っている。	新たに想定パターンを増やし訓練の実施とマニュアルの見直し、保護者への周知を定期的に行う。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	計画に沿って必要な備蓄、研修や訓練を実施した。事業所内イベントの際に保護者にBCP（業務継続計画）についての説明と備蓄の確認を行った。	計画を定期的に見直し保護者や学校、関係機関と連携した対応、研修、訓練を実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	医師の指示書や保護者からの情報にて状況を確認をし、発作等の状態を情報交換している。	こどもの状態、服薬情報等を保護者や学校と情報交換をし対応を確認する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	医師の指示書や保護者からの情報提供に応じて施設内の管理栄養士と連携し対応している。	診断書等の提出により確認をし、保護者から対応の指示を確認する。管理栄養士と連携して対応を確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	年間の事業所安全計画に沿って、研修や訓練その他安全な環境設定を行っている。	様々な場面を想定した危機管理を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	安全計画に基づく取組を掲示板等を使用し周知している。保護者が集まる会にて説明を行った。参加できなかった方には後日資料を配布して説明をした。	こども安全確保に関して、定期的にご家族へ説明する機会をつくり周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	小さなことでもレポートを作成し、職員間で共有し対策を検討している。	小さな気づきを取り上げ、対策をとり危険防止・事故防止をする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止委員会を設置し、定期的な話し合い研修を行っている。	今後も虐待防止の研修や委員会を計画的に行い職員間の意識を高めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束についての研修や適正化委員会において事業所の指針や場面ごとの対応の確認、防止対策をとっている。	身体拘束防止のための研修を継続して定期的に行い意識合わせをしていく。	